

# 比較文化論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・友松郁子

科目担当者（職位・氏名）：

---

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢  
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：18

## ■ 授業概要

現代はグローバル化が著しく、医療や福祉の領域でも、看護職が国境を超えて看護に従事することも珍しいことではない。かたや、高齢化も顕著で、世代を異にする人々が共に暮らす時代でもある。このように現代社会は、多様な人間のあり方、異文化との接点に富んでいる。こうした状況の中で、他者や異文化を理解する基本的な視点を学ぶことの意義は大きい。講義では、社会学や文化人類学にもとづきつつ、理論的な論点だけでなく、具体的な論点もとりあげ、解説していく。この学習を通して、自らの文化を相対化しつつ、異文化と向き合い、対話する上での態度の修得を促していく。

## ■ 到達目標

1. 医療、福祉分野における多様なテーマを、「文化」という視点で捉えるための分析手法を身に付ける。
2. その過程において、「これまで当たり前と思っていたこと」、「疑問をもち意識を向けることがなかったこと」を問い直すことができる。
3. 自らの文化に対する新たな視点を育むことができる。

## ■ 教育内容

科学的思考の基盤、人間と生活・社会の理解

## ■ キーワード

医療技術、ケア、身体観、睡眠、健康観、障がい観・障がい者観、比較文化

## ■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	文化的多様性	<p>【講義】医療・福祉におけるテーマの「文化」という視点での捉え方、分析手法について</p> <p>【グループワーク】分析手法について</p>	友松
2	医療技術の発展と社会的受容	<p>【講義】医療技術発展の歴史、その制度化及び社会的受容についての国際比較</p> <p>【グループワーク】医療技術の受容状況について情報収集し国際比較</p>	友松
3	ケアの提供体制と社会的受容	<p>【講義】医療ケアや身体ケアなど、文化によって捉え方が多様となるケアと提供体制、社会的受容について国際比較</p> <p>【グループワーク】日本と他国（1か国を選択）について情報収集</p>	友松
4	身体観と文化	<p>【講義】身体が作る文化と、文化に影響される身体について</p> <p>【グループワーク】「語り」の分析手法について①</p>	友松
5	睡眠と文化	<p>【講義】睡眠という行為・実践、文化による多様性について</p> <p>【グループワーク】「語り」の分析手法について②</p>	友松
6	健康観と文化	<p>【講義】健康に対する捉え方の多文化比較</p> <p>【グループワーク】統計データを用いた分析手法について</p>	友松
7	障がい観・障がい者観と文化	<p>【講義】障がい・障がい者を1人称、2人称、3人称で、そして多文化の視点で捉える</p> <p>【グループワーク】複数のデータを組み合わせた分析手法について</p>	友松
8	まとめ	成果発表	友松

## ■ 履修条件

特になし

## ■ 成績評価方法

授業は講義とグループワークで構成します。成績はグループワーク（50%）、成果発表（50%）で評価します。

## ■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

必要に応じて学務課を通して行う。

## ■ 教科書

特になし。必要な資料を授業時に配布する。

## ■ 参考書・参考資料等

授業時に紹介する。

## ■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

詳細は授業時に提示する。

## ■ 担当教員からのメッセージ

授業では、みなさんにとって日常の中で身近な医療・福祉分野のテーマを取り上げ、それらのテーマを多様な文化の視点を通してみていきます。これまでのあたり前を一旦打ち砕くことで、自分の中に新たな視点を育てていきましょう。授業は講義と演習を組み合わせることで進めていきますので、積極的参加を期待します。積極的に参加するためのスキルについてもお伝えしていきます。

## ■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

対面での授業を実施する場合は、講義の前後の時間帯に質問を受け付けています。その他は学務課へお問い合わせください。

■ 担当教員の実務経験の有無

無

■ 担当教員の実務経験

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容